

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では今年度も「一人ひとりの可能性を引き出しながら、主体的に学ぶとともに、自ら考え、判断し、決定して行動できる生徒を育成する」ことを学校課題とし、以下の取組を行った。

総合学科は〔学習活動〕では、重点課題として引き続き「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進と家庭学習習慣の確立に努めた。生徒自ら学習目標や計画を立ててそれを達成できるように、担任等による面接指導を充実したり、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるように指導した。また1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて社会人や地域の方々などと協働しながら企業課題や社会課題、興味課題に取り組む主体性や態度の育成に努めた。〔進路支援〕では、進路実現に向けて、1年次「産業社会と人間」で進路目標を明らかなものとし、2年次「総合的な探究の時間」の進路活動を通して自己理解を深め主体的に進路を考えるよう指導した。他に模試の分析や検討、推薦受験者に対する個別指導、志望理由書の指導など、全校体制で進路支援や面接指導の充実を図った。

看護科は〔学習活動〕では、「臨地実習」を通じて臨床看護を行うための資質・能力を育て、現場の課題に取り組む主体性や態度の育成を図り、人間尊重の精神を基本とした望ましい看護師の養成に努めた。

学校全体として、三つの方針（スクール・ポリシー）にある「身につけたい6つの力」（傾聴力・想像力・思考力・発信力・協働力・実行力）を学校行事等の際に意識させ、学期末に振り返りを行った。生徒の自己評価は学期が進むにつれて上昇した。

学校アクションプランの達成目標11項目のうち、目標を達成したのは5項目であり、Bの評価が4項目であるため、総合評価をBとする。

## 7 次年度に向けての課題と方策

今年度の評価をもとに各項目について以下のように取り組んでいきたい。

- 「学習活動」・「主体的・対話的で深い学び」になるように、教育用クラウドサービスの活用や面談等を通して進路目標の早期の構築ができるよう継続して援助を行うとともに、探究活動の充実を図る。
- 「学校生活」・ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう、継続して指導に取り組んでいく必要がある。
  - ・自転車の交通事故防止のため、交通ルールの遵守とヘルメットの着用について、周知・指導をしていく必要がある。
- 「進路支援」・多様な進路志望や入学者選抜方式に対応できるよう体系的な指導体制の構築と情報共有の強化し、生徒個々の強みを活かす方式の選択と指導について、継続して全校体制で行う必要がある。
  - ・本校での受験指導のモデルを作り、さらに質の高い進路指導を行えるようにする必要がある。
- 「特別活動」・生徒による主体的な学校行事への取組支援と、実施方法の模索の継続が必要である。
  - ・「育てたい力」が向上できるように事前指導を充実させ、学級運営の向上を目指したい。
  - ・今年度から始めた履歴調査のタブレット入力が確実に実施ができるよう環境を整備していく。
- 「看護教育の充実」・継続して、新教育課程における効果的な授業実践や評価方法の検討と充実を図る。
  - ・臨床判断能力育成のため、シミュレーション教育の充実とICT活用をより一層推進する。

生徒たちが様々な活動に主体的に取り組む学校を作っていくため、「富山いずみ高校三つの方針（スクールポリシー）」を学校全体で浸透させ、目指す学校像に向けた、さらなる具体的な改善を行っていきたい。

重点項目	①学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の確立</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科では生徒の進路目標が多様であり、選択した科目に応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる。</li> <li>・進路や学習に対する目標が明確でない生徒は学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。</li> <li>・「協働力」が十分身につけている・ある程度身につけていると回答した生徒の割合は、昨年度3月のアンケートで2年生が約70～60%、1年生は約70～45%。「実行力」は2年生は約50%、1年生は約40%</li> </ul>	
達成目標	① 家庭学習の振り返りアンケートにおいて	② 12月実施のアンケート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てて学習している</li> <li>・課題やそれ以外の学習に取り組んでいる</li> <li>・テストの見直しを行いその後の学習改善につなげている</li> </ul> の各項目のポイント（10点満点）	（IGP：いずみグラデュエーション・ポリシー） 「協働力」「実行力」のスコア（十分身につけている・ある程度身につけている）
	3つの項目の平均点 5.5点以上／10点満点	「協働力」80%以上 「実行力」60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任等による面接指導を充実する。</li> <li>・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。</li> <li>・小テストや考査の見直しを促し、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科～1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて社会人や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら企業課題や社会課題、興味課題に取り組む主体性や態度を育てる。</li> <li>・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力を育て、現場の課題に取り組む主体性や態度を育てる。</li> </ul>
達 成 度	1 学期（全学年） 6.4 点 2 学期（全学年） 6.5 点	「協働力」高校 71.9% 専攻科 64.5% 「実行力」高校 57.9% 専攻科 57.9%
具体的な 取組状況	①生徒が学習目標や計画をたててそれを達成できるように、各学年で取り組みを行った。 (1年) デイリーワーク等で学習習慣の定着を図り、定期考査や模試後の見直しを重点的に行った。今年度はクラッシーを積極的に活用して、教科で課題に取り組みせ、学習時間の確保や日々の学習の振り返りを充実して行うことができた。 (2年) デイリーワークの提示を行い計画的に課題に取り組むように指導した。課題の提出を段階的にする等して、課題への取り組みをこまめに確認した。授業の進度表を配布し、小テストの実施を明確化して、自主的に取り組めるように工夫した、科目によっては個人の理解度に合わせて課題の量を指定し意欲的に取り組めるように働きかけた。進路講演会を各学期に1回実施し志望校や学部について調べたり、興味のある学科の講座を聴講する機会を設けたりして、学部・学科を決定する支援をおこなった。 (3年) 学習時に小テストやリスニング練習、社説を読むなどの活動を行い、基礎学力や基礎知識の向上を図った。また、デイリーワークや学習進度表の提示によって、計画的な学習の確立につながった。希望者補習を実施して学力向上を目指す生徒への対策を行った。 ②・総合学科「産業社会と人間」～コミュニケーション能力の向上を期して各活動に取り組んだ。「総合的な探究の時間」～立場の異なる他者と協働し各種課題の発見考察提案発表に取り組んだ。 ・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力、現場の課題に取り組む主体性や態度を育てた。	
評 価	① A	・達成目標項目と一緒にを行った項目「学校の課題をきちんと提出することができた」数値が8点以上と高い一方で、「計画を立てて学習することができた」数値が5.9点と他の項目に比べてやや低い。計画を立てて日々課題に取り組む学習習慣が学力向上につながると考え、指導を続ける必要がある。
	② C	評価Cは初めての達成目標ということで現状維持とした。目標のスコアには及ばなかったが、学年を重ねることにスコアの上昇が見て取れた。主観的な自己評価ではあるが、本校教育活動における生徒たちの自己効力感の向上を示しているのではないかと考える。
学校関係者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てることはPDCAの要なので、身に付けられるよう継続して指導していただきたい。</li> <li>・協働力と実行力は社会の中での自身の在り方を探る上で重要です。自己効力感と合わせて向上させられるよう取り組んでいただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向 けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の早期の構築</li> <li>・個々の回答の判断のあいまいさを是正するため、6つの力の評価基準を生徒の意見を踏まえて作成し明示する。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	2 学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成</li> <li>・ 交通安全や防犯に関する意識の向上</li> <li>・ 校内の環境美化に主体的に努める意識と態度の育成</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマートフォンの校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や長時間使用し、学習や睡眠など生活に支障を来す生徒が一部存在する。また、少人数ではあるが安易に SNS に個人情報を掲載し、ネットパトロールから指摘をうけたり、外部より苦情がきたりトラブルに巻き込まれる生徒もいる。</li> <li>・ 昨年度の自転車乗車中における交通事故は9件発生している。</li> <li>・ 「スマホ」や「イヤホン」を使用しながら登下校する生徒も一部に見られる。</li> <li>・ 昨年度途中から校時から「終礼」がなくなり、授業終了後すぐに「清掃」となった。工事の都合で年度途中の清掃場所が変更・追加されたことも影響しているのか、場所によっては「清掃当番の集合が遅い」、「清掃が行き届かなくなった」などの問題が起こっている。今年度も工事のため、清掃分担区域については、年度途中で大幅な変更が予定されている。</li> </ul>	
達成目標	①交通安全とスマートフォン使用に関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合	②『「清掃」に主体的に取り組み、時間内にきれいにすることができた』生徒の割合。
	90%以上 (1月実施「マナー・規範意識」アンケート)	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規律委員会主体による活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。</li> <li>・ 生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い、正しいネットの使用方法について考えさせる。</li> <li>・ 規律委員会（サイクルリーダー）による自転車の鍵かけを呼びかけ、防犯意識涵養を図る。また、ヘルメットの着用についても呼びかける。</li> <li>・ 外部機関と連携し、安全教育に関する講演会を企画する。</li> <li>・ 生徒自身が学校生活の在り方について考え、自分たちの課題について主体的に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各クラスで清掃当番が授業終了後速やかに清掃場所へ移動するよう指導する。</li> <li>・ 清掃指導者は、清掃の手順および清掃後の理想的な状態を具体的に示す。</li> <li>・ 生徒保健委員は定期的に校内全体の清掃状況について点検を行う。</li> <li>・ 生徒の意識・行動の実態を把握するためのアンケート調査を行う。</li> </ul>
達成度	87.7%	『「清掃」に主体的に取り組むことができた』83.1% 「時間内に掃除することができた」83.5%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ より良い校風づくりを目指し、規律委員会が今年度の目標を設定し全校生徒に働きかけた。</li> <li>・ 規律委員会を中心として、以下の活動を行った。「朝の活動」…規律委員と教職員が生徒玄関前や通学路で挨拶運動や横断支援を行った。自転車の鍵かけと駐輪マナー、ヘルメットの着用も呼びかけた。「さわやか運動」…PTA・教職員と共に3日間にわたり運動を展開した。学校スローガンに基づき規律委員会がポスターを制作したり、クラスで重点項目を呼びかけたりするなどの啓発活動を行った。</li> <li>・ 1, 2年生の統一HRで、スマホ・ネットの使用を振り返り、各クラスのスマホ・ネットルールを決めた。</li> <li>・ 外部講師を招き、安全教育講演会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「長寿命化工事第2期」の清掃区域になってから、清掃指導・啓蒙活動を強化する「いずみピカピカ大作戦」という「アクション」期間を設定した。アクション期間終了後に、振り返りの意識調査（生徒アンケート）と、「クリーン調査隊」（1年と2年の保健委員）による各清掃箇所の清掃後の状況点検を実施した。</li> </ul>
評 価	① B	交通安全とスマートフォン使用に関するアンケートの項目においては達成目標に届かなかったが、スマホ・ネットに関する統一HRやマナー・規範意識アンケートを通して自らの行動を振り返らせ、意識の向上を図った。これらの取り組みから、当初の目標をほぼ達成したと考えた。
	② B	振り返りの意識調査結果では、『「清掃」に主体的に取り組むことができた』、「時間内に掃除することができた」のどちらの項目も8割以上で、目標を達成したように見えた。ただし「クリーン調査隊」の点検の結果、「きれいに掃除できた」箇所ばかりではないことがわかった。達成目標は「きれいにすること」を含んでいるため、目標を完全に達成したとはいえないので、「評価」は「B」とした。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全について外部の知見を直接伺う機会は重要です。功罪両面を伝えて自ら考え行動するよう導いてほしい。</li> <li>・ 集団生活やマナーについてクラス等で話し合うことについては、今後も継続して取り組んでいただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう継続して指導に取り組む。今年度は自転車乗車中の交通事故が増加した。交通ルールの遵守とヘルメットの着用について引き続き周知・指導をしていく必要がある。</li> <li>・ まだ長寿命化工事が続くので、次年度もこの「清掃」をアクションプランに取り入れる予定である。今回は「達成目標」の設定の仕方に問題があったと思うので、次年度にはもっと客観的評価がしやすい目標にしていきたい。</li> </ul>	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	3進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接指導の充実</li> <li>・3年生への進路支援の充実</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのつながりについての意識が希薄であり、進路や学習に対する目標が明確でない生徒、あるいは狭い視野でしか物事を捉えることができていない生徒が散見される。</li> <li>・家庭学習が習慣化していない生徒、また、学習態度はまじめだが基礎学力が定着していないため学習に困難を感じている生徒が見られる。</li> <li>・3年総合学科では、1，2年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、小論文や面接指導など志望先に応じた指導を充実させることが求められている。</li> <li>・大学入試制度改革への対応として、1年「産業社会と人間」、2年・3年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化するための取り組みが始められている。</li> </ul>	
達成目標	① 面接指導の充実 ・面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために役立った」と回答する生徒	② 3年生への進路支援満足度 ・3年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒
	80%以上	平均55%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査、学習時間調査、進路学習の振り返り、学習成績記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。</li> <li>・面接週間期間は生徒面談を優先するため、校時・行事について配慮する。</li> <li>・教科担当者との面談も必要に応じ設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般選抜を含め、小論文指導、面接指導など、志望先に応じた指導体制の充実を図る。</li> <li>・過去問や受験報告書等の蓄積データをデータベース化し活用できるようにする。</li> <li>・生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。</li> </ul>
達 成 度	84.5% (1学年82.8%、2学年86.3%)	97.8% (「満足」63.5%、「ある程度満足」34.3%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期、2学期については、学期はじめに2週間程度の面接期間を設け、そのうちの1週間は短縮授業を実施し、面接時間の確保に全校的に取り組んだ。年間を通して、科目選択や進路希望に関わることなど、各学年とも3回以上の個別面談を実施している。</li> <li>・各学期の初めに学習時間や生活実態、学習に向かう姿勢等の調査をGoogle classroomを利用して実施した。学習への取り組み状況を把握することで、面談資料としても活用できた。</li> <li>・校内実力テストの成績表に教科ごとの得点分布を載せるように改善し自己の取り組みへの振り返りの一助となるように工夫した。</li> <li>・学校推薦型選抜受験者に対する個別指導を全校体制で行った。志望理由書の指導を面接指導担当者に依頼し担任の負担軽減に努めた。</li> <li>・各学年でスタディサポートや模試の分析・検討を行い、学習指導・進路指導の改善に活用した。</li> <li>・生徒との面談内容等を記録し、次年度への引継ぎを行える体制を整えた。</li> </ul>	
評 価	① A	面接が「おおいに役立った」と答えた生徒の割合が、昨年度(1学年16.6%、2学年26.6%、全体21.6%)に比べ微増した。(1学年21.7%、2学年24.2%、全体22.9%)今後も生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を続けていきたい。
	② A	「満足」が63.5%と目標に届いた。特に3年次での取り組み(受験に向けての各種ガイダンス、小論文・面接指導等)については、多くの生徒が「参考になった」「役に立った」と評価した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労環境が様変わりして正解のない時代になっている。生徒の皆さんには、高校三年間の自分探しの時期に様々な社会体験や多様な人生の歩みを知り考えることで主体性を身に付けてもらいたい。そのために学校は従来の進学指導に偏りすぎないよう広い視野をもって教育活動に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な進路希望や入試方式に対応できるような指導体制を整え、生徒個々の強みを活かす指導を全校体制で行う。</li> <li>・本校での受験指導のモデルを作り、さらに質の高い進路指導を行えるようにする。</li> <li>・学習支援ツールの使用方法を練り、生徒が自分に合った課題を主体的に行えるようにする。</li> </ul>	

(評価基準

A：達成した

B：ほぼ達成した

C：現状維持

D：現状より悪くなった)

重点項目	④ 特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援</li> <li>・IGPを浸透させ、各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度の育成</li> <li>・読書意欲の向上と幅広い読書の推進</li> </ul>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校行事に対する充実感が高い一方、参加意識や関わり方が薄い生徒も見られ二極化。生徒一人一人が主役であることを意識させるとともに、全員が企画運営に携わることで充実感の質を向上させたい。</li> <li>・部活動やホームルーム活動、委員会活動では、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多いが、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる。目標達成や諸問題の解決のために仲間や教師と協働して取り組もうとする態度を育成したい。</li> <li>・朝読書により生徒たちは読書を身近なものにとらえている。しかし、残念ながら読書習慣にはあまりつながっておらず、家庭での読書量が少なくなっている。</li> </ul>		
達成目標	①各学校行事への取り組みに対する充実感、達成感	②IGPを意識したホームルーム活動を取り組みことができたか。	③朝読書、朝読書以外も含めて、充実した読書ができたとする生徒の割合
	90%以上	80%	50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。</li> <li>・生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、意見箱を設置し広く意見を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの「育てたい力」を生徒ともに考え、年間を通して方策を探る。</li> <li>・HR活動の充実を図るため研修や学年単位での活動で、クラス発表の場を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートし、朝読書の時間は集中して読書に取り組むようにする。</li> <li>・各学期末に履歴調査などを通して生徒が振り返る機会を設定する。</li> </ul>
達成度	98.0%	75.0%	64.5%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校行事では、校舎の改修工事で場所の設定が難しい中、生徒会執行部を中心として生徒の意見を反映させながら企画・運営に取り組ませた。文化活動発表会に芸術鑑賞会を入れ、行事の省略化を図りながら生徒会中心とした運営を行った。</li> <li>② 学期ごとに「育てたい力」の目標を掲げてもらった。担任にはホームルーム活動でその目標を周知し、HR計画作成に当たって「育てたい力」の実現に向けた内容を取り入れ、学級運営の向上を目指した。全体での球技大会は廃止したため、各学年で生徒主体の行事を企画、運営させ取り組んだ。</li> <li>③ 毎朝の声かけ指導や統一HR「読書の時間」などを通して、積極的に読書に取り組むとともに、自分が読んだ本に対する感想を文章化してクラスの仲間と共有することで、本を読む楽しさを発見できる機会を増やすよう努めた。</li> </ul>		
評 価	① A	本年度は体育大会の開催時期を1週間早め前倒しで企画をしてきた。時間の余裕がない中で、生徒会団長が中心となり試行錯誤しながら充実させていた。アンケート結果にも準備の段階から積極的に参加したと答える生徒も多く、生徒が主体的に取り組める大会になった。	
	② B	各クラスで「育てたい力」を目標に掲げ、計画をスタートしたが年間を通して同じ内容のHRが多く、工夫が少なかった。生徒に任せ主体的に取り組ませるのはいいのだが、事前指導をもう少し充実させ幅広い内容になるようにすべきであった。	
	③ B	評価としては高い数値が出たが、今年度からはじめたタブレット使った読書履歴調査の入力が徹底したものにならず、ある程度のデータが抜け落ちているのではないと思われる。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が「やりたい」「やってみたい」と考え、学校行事に自発的、積極的に取り組んでいることは大変素晴らしい。</li> <li>・朝読書が定着し、良い時間が保たれていることは喜ばしい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 3年に1度の大きな文化展が開催予定なので、生徒を中心とした企画・運営ができるよう働きかける。</li> <li>② 「育てたい力」を向上できるHR活動ができるよう事前指導を充実させる。</li> <li>③ 今年度から始めた履歴調査のタブレット入力が徹底したものにならなかったため、引き続き確実な実施ができるよう環境を整備していく。</li> </ul>		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

令和6年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	その他（看護科教育の充実）	
重点課題	・看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実 ・専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成	
現 状	・学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。 ・看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。 ・卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。 ・看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。	
達成目標	① 進路実現 看護師国家試験合格率・進路達成度  100%	② 看護科意識調査での満足度 専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」「学習面・進路面」の問いに「満足した」と回答した生徒  80%以上
	方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「解剖生理」「病理」の基礎的知識定着に向け、授業改善、評価方法の検討を継続していく。</li> <li>高校1年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加と生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫すると共に、成績下位者への個別指導を行う。</li> <li>国家試験対策として、教員セミナーに参加し、113回国試問題の分析による指導方法の工夫を図る。</li> <li>外部模試や実力テストの事後指導と共に早期に必修問題に取り組み強化していく。</li> <li>就職試験対策講座を活用し、早期に進路決定させ、計画的に面接・小論文指導及び進路懇談会を実施する。</li> <li>大学編入希望者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握、校内での指導体制の強化を図る。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師国家試験：試験2/16、発表3/24</li> <li>進路100%：就職（29名）内定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護科で学んでよかった62.5% 概ねよかった33.3%</li> <li>「学習指導」の満足37.5% ほぼ満足50%</li> <li>「進路指導」の満足37.5% ほぼ満足62.5%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校では、校内外実習記録から、生徒の理解度や主体的に取り組む態度・学習意欲を測り、個別の学習状況に応じたコメントの記載や声かけを実施することで、よりきめ細やかな指導やフィードバックにつながった。</li> <li>理科教員と連携し生物・化学分野の国家試験対策として、教科横断的指導を行った。</li> <li>高校では保護者会や保護者説明会を通して、看護科や進路に関する説明を行うなど、情報提供を行い、生徒と保護者が進路実現に向けて取り組めるようにした。</li> <li>国家試験対策として、研修会に参加し出題傾向の分析に基づく授業を行い、生徒の学習指導に活かした。また専2は、臨地実習終了後より朝テストを実施し、知識の定着を図った。外部模試や定期考査の結果から、学力不足の生徒には課題学習を提示し、事後指導を行った。</li> <li>専1の12月に看護協会主催の「就職がイグス」の案内を行い、早期の進路決定に繋がった。また、マイバ就職対策講座を12月に2回、3月に1回実施、より具体的な指導を行った</li> <li>専攻科では6月に進路懇談会を実施。進学懇談会を8月から3月に変更し、早めの対策をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育振興会講演会で講師の看護への思いを聴くことで、看護へのモチベーションの向上と看護観育成に繋がった。</li> <li>看護科行事、合同HR、合同実習及び自治会交流会などのピアサポート活用による異学年間交流がコロナ禍以前のように行ったことで、生徒が目標達成に向けて、学習意欲維持向上や自己の到達目標を明確にすることができ、学びへのモチベーション向上の相乗効果があった。また、専攻科では、他校との学習交流会や学生交流会、富山マラソ救護ボランティアに参加することで、学習意欲の向上が図れた。</li> <li>教員間の情報共有を密にし、問題を抱える生徒において、面談を適宜行い、保護者とも連携を取り早期対応を図った。</li> <li>シミュレーション教材やタブレット学習を積極的に実施し、より現実的な実習に近づけることで具体的なイメージを持てるよう工夫した。</li> <li>臨地実習の振り返りをグループ間で行うことで学びの共有や成長を実感し看護のモチベーションが向上した。</li> </ul>
評 価	① A	進路は就職全員内定、看護師国家試験に全員合格100%で目標は達成した。
	② C	「学習指導」「進路指導」とも、満足よりほぼ満足の割合が多くみられたため
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場での学び「知る」「わかる」が「使う」「実践できる」と深まるように実習病院として協力したい。</li> <li>きめ細かい情報提供が納得感や満足感のある進路指導に繋がっている。ICTの効果的活用も進めていただきたい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムにおける授業の工夫や効果的な授業方法の検討ならびに評価方法の検討の継続。</li> <li>臨床判断能力育成のための各分野（基礎・成人・老年・母性・小児・精神・統合・在宅）でのシミュレーション教育の充実、演習の見直しとICT活用の効果的学習方法の検討の継続。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）